

## 農林水産省関東農政局長賞

### 「新かん線で食べるおにぎり」

藤沢市立湘南台小学校

3年 寺内 瑞偉

毎年、夏休みにだけ食べられるぼくの大好きなおにぎりがあります。それは、岩手のおばあちゃんがにぎってくれるおにぎりです。

ぼくのおばあちゃんは、岩手県に住んでいます。ぼくの住む神奈川県からは遠いので、夏休みにしか遊びに行くことができません。おばあちゃんは、ぼくが好きなおにぎめや弟が好きなカラアゲやヒレカツなどをたくさん作ってくれます。岩手県はおさしみもおいしいので、ぼくと弟は食べすぎて体重がふえてしまいます。食べたり、虫とりをしたり、遊んだりしていると、あつという間に帰る日になってしまいます。またしばらく、おばあちゃんに会えなくなるので、ぼくはさびしくなります。

帰る日の朝、おばあちゃんは新かん線の中で食べるようにと、おにぎりをにぎってリュックの中に入れてくれます。少し大きめで、のりをまいた真っ黒な丸いおにぎりです。できたてなので、せ中が少し温かくなります。

新かん線が発すると、ぼくと弟はいつぱい手をふります。おばあちゃんが見えなくなるまで手をふり続けます。見えなくなると、弟はすぐにおにぎりを食べ始めます。それを見ると、ぼくもおなかがいっぱいなのに、おにぎりを食べ始めます。

おばあちゃんのおにぎりはすごいです。食べるとさびしかった気もちが消えていきます。お米がモチモチしていてとてもおいしいです。食べていると楽しかったことが思い出されます。ぼくは、オニヤンマをあと少しのところだとれなかつたことも思い出してしまい、おにぎりまでしょっぱく感じて、急いでお茶を飲みました。

おばあちゃんのおにぎりは、

「また来てね。神奈川で元気にすごしてね。」  
と言ってくれているみたいで、ぼくは大好きです。